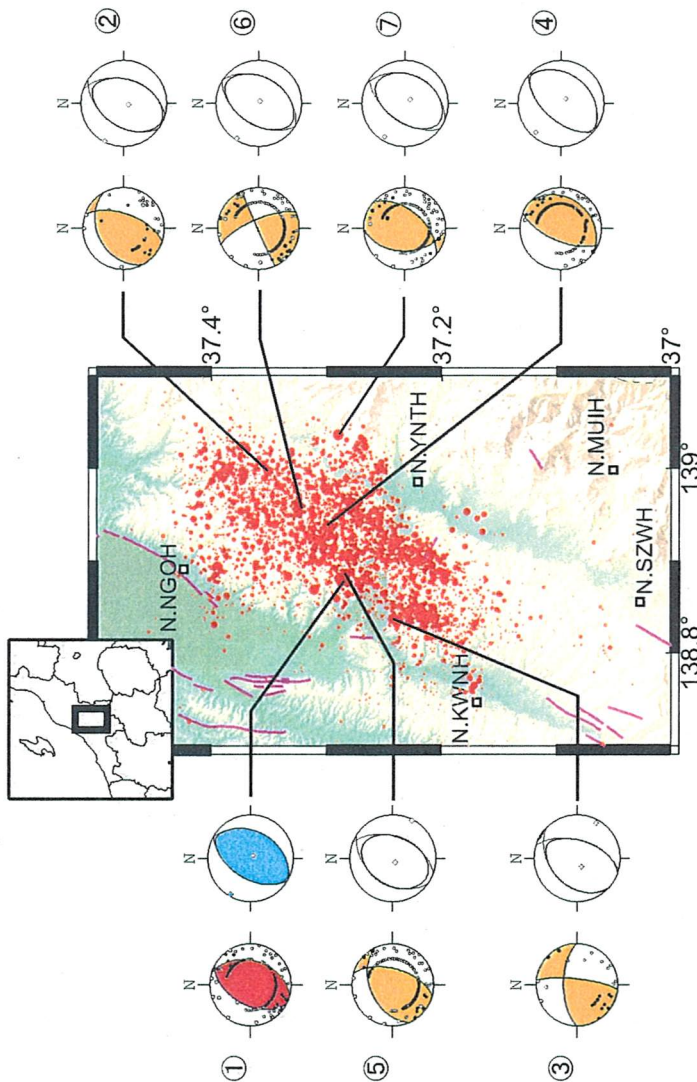


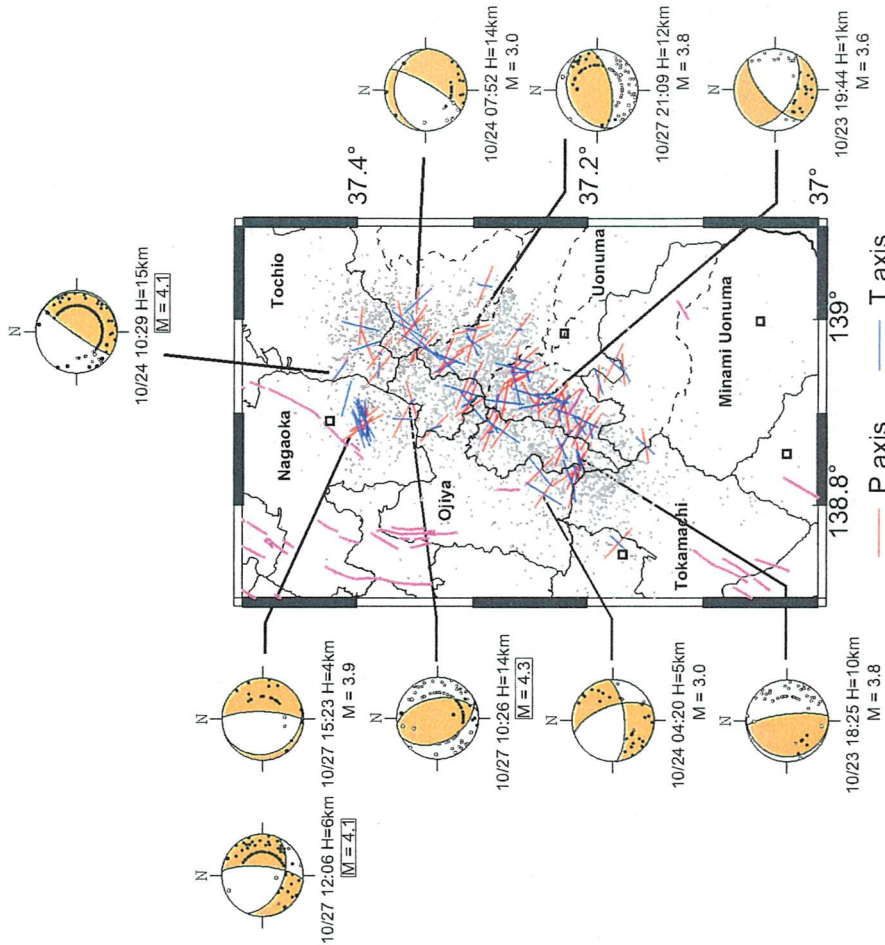
新潟県中越地震震源域で発生した主な地震のメカニズム解 ー 防災科研F-netおよびHi-netによる解析 ー

2004/10/23 17:50-2004/11/03 16:50 (N=5371)



	Origine Time	Latitude [N]	Longitude [E]	Depth [km]	M	Strike	Dip	Slip	V. R.	
①	2004/10/23 17:56:00	37.28	138.88	13.4	6.5	208/16	49/41	98/81	86.88	
②	2004/10/23 18:03:13	37.35	139.00	5	6.5	211/27	52/38	93/87	86.88	
③	2004/10/23 18:11:57	37.24	138.84	14.1	5.9	270/6	63/78	167/28	88.78	
④	2004/10/23 18:34:06	37.30	138.94	11.3	6.4	387/203	26/85	104/83	88.79	
⑤	2004/10/23 19:45:57	37.28	138.89	11	6.2	221/39	58/32	91/88	89.04	
⑥	2004/10/25 06:04:58	37.32	138.96	8	5.5	207/215	50/41	80/101	82.12	
⑦	2004/10/27 10:40:50	37.29	139.04	11.3	6.1	40/180	54/44	117/59	85.78	
					11	5.9	216/24	57/34	96/81	90.01

上段: Hi-netによる震源情報及び初動解
 下段: F-netによるCMT解



左図 新潟県中越地震及び主な余震 (Mw5.5以上) のメカニズム解。
 赤点は防災科研Hi-net自動処理 (一部、暫定再検測含む) による余震の震央位置、紫線は活断層位置を表す。北西-南東圧縮の逆断層型のメカニズムが支配的である。

右図 防災科研Hi-netの初動解析により求められた主な余震のP軸 (赤)・T軸 (青) 分布図。長さは各軸の傾斜角に対応する。概ね、P軸は北西-南東方向、T軸は北東-南西方向に揃っている。軸方向が揃っていない余震や正断層型のイベントも発生しており、余震域周辺部の複雑な応力場を反映していると考えられる。